

SAKASO

「さかそう」

ご自由にお持ちください

特集 チーム医療



2025.10 Vol.74

お知らせ

「坂総合病院 市民公開講座」を開催します

- テーマ** 認知症 **講演①** 認知症と共に生きる・診察室からのメッセージ
坂総合クリニック宮城県認知症疾患医療センター長・医師 今田 隆一
- 講演②** もの忘れ外来での家族支援ー看護師としてできることー
坂総合病院認定看護師 阿部 育実

- 日時:2025年11月15日(土)14:00~16:30
- 場所:利府町文化交流センターリフノス多目的ホール
(利府町森郷字新椎の木前31-1)
- 定員:200名
- 参加費:無料 ※要事前申込
- 予約・問合せ:022-367-9027(友の会事務局)



診療予約・変更・お問合せ

まずはコールセンターへお電話いただき
ご確認をお願いいたします。

コールセンター **022-361-8288**

- 平日 8:30~16:30(小児科のみ8:00~)
- 土曜 8:30~11:30(小児科のみ8:00~)

※日曜・祝祭日、年末年始(12/30~翌年1/3)、8/16(お盆)は休業。

- ◎紹介状をお持ちの方は、必ずその旨をお伝えください。
- ◎上記時間以外で救急診療のお問合せは、病院代表番号
(022-365-5175)にお電話をお願いします。

詳細はwebサイトでもご確認いただけます。

坂病院 🔍 検索 <https://www.m-kousei.com/saka/>

表紙について

今月からチーム医療について紹介するSAKASO。表紙ではチームを構成する一人ひとりの個性が伝わるよう、愛用品と共に撮影を行いました。富山院長は長年大切にしている弁当箱を、コーヒー好きな伊藤看護部長はデミタスカップを。そして吉田事務局長は仕事に不可欠な手帳とメモ帳を手に入れています。

●表紙撮影/坂総合病院



- 電車の場合 ▶ JR仙石線・下馬駅下車。駅前が当病院です。
- お車の場合 ▶ 第三駐車場は、当院ご利用の方は**無料**です。
第三駐車場と病院間の送迎バスを運行しています。

SAKASO 坂総合病院 広報誌「さかそう」
2025年10月1日発行



坂総合病院
SAKA GENERAL HOSPITAL

〒985-8506 宮城県塩釜市錦町16-5
<https://www.m-kousei.com/saka/>
【広報誌に関するお問合せ】Tel 022-365-5175(代)



—— 病院の枠を超え、地域を支えるチーム医療へ ——



写真左から看護部長・伊藤佳子さん、富山陽介院長、事務局長・吉田賢吾さん。それぞれの立場から考える、“坂総合病院らしいチーム医療”を語る

—— 厚生労働省が取り組みを始めた2009年から、国内の病院で展開されてきたチーム医療。地域を支える坂総合病院だからこそできるチーム医療はあるのでしょうか？

富山 大正時代からこの地にある坂総合病院では、チーム医療という枠組みに関わらず、地域の身近な存在として医療を届けてきました。最近では地域医療支援病院として急性期医療に力を入れています。そうした思いの一方で、地方都市には生活に困難を抱えている人が多くいらっしゃいます。そのため私たち医師は、常々「患者さんの病気だけを見るな」と教わってきました。生活環境や労働環境まで見るように、と。そうした視点から一人ひとりの患者さんを包括的に捉えようとすると、医師だけでは解決できないことがあると痛感しますし、必然的に様々な職種と協力することになります。複雑な問題を抱えている人が身近にいるからこそ、多職種で連携するのです。

根本にあるのは、よりよい医療を提供したいという思い。この病院には、チーム医療が日本に導入されるずっと前から、スタッフが連携して患者さんをケアする土壌が培われてきたのです。

伊藤 チーム医療は多職種で連携した診療を意味しますが、私は看護師なので看護チームを通してチーム医療のあり方を考えたいです。当院では病棟内の看護師を2・3のチームに分けて看護を行う、固定チームナーシングという看護提供方式を取り入れています。ケアを行う中では、患者さんの身体的問題だけでなく心理的問題や社会的問題まで見えてきます。そこから、患者さんにとってベストなケアをチームで考えていくのです。チームで情報を共有しながら、経験や技術、知識を集結して患者さんの課題解決に当たるこの過程こそ、看護の魅力と本質だと思います。それでも、看護師だけでは解決できないことがある。だからこそ多職種でつながり、専門性を発揮しながらよりよいケアや治療法を追求



栄養サポートチーム（NST）の活動の様子。医師や管理栄養士らが、患者さんの栄養指導方針を検討している

していく。そうした取り組みが、患者さんをよい方向にもたらし、ためのチーム医療につながっているのだと考えています。

吉田 事務局長という立場上、私が診療に関わることはありませんが、院内の医師が自ら勉強会を立ち上げ、周りを巻き込みながらチームをつくりあげていく過程をこれまで見聞きしてきました。患者さんのために少しでもいい医療を提供したいという思いのもと、スタッフは集まるのでしょうか。こうし

た活動に力を注げるスタッフは本当に貴重な存在だと思います。事務の立場でチームに参加するにはハードルが高く感じますが、事務は患者さんに近い立場だからこそ、メンタリテイの部分で寄り添うことができると思っています。今後はそうしたチームの関わり方ができるといいですね。

—— 坂総合病院が考える、理想のチーム医療のかたちはありますか？

伊藤 やはり社会的な視点をお忘れないチームであることでしょうか。疾患は体の中だけで起こるのではなく、社会的な要因が関係していることがあります。そこをなんとかしなければ、健康の維持も改善もできない。それはスタッフの誰もが日々患者さんと接している中で感じていることです。だから、ケースワーカーなども関わりながら生活背景まで含めた改善策の提案が必要ですし、実際に私たちはそう実践してきました。その積み重ねには誇りを持っています。

特集

チーム医療

「患者さんによりよい医療を提供したい」
そんな思いを原点に多職種が連携し、
包括的なケアを行うのがチーム医療です。
今回は坂総合病院を牽引する3人から、
チーム医療の現状について聞きました。

毎回テーマを変え、坂総合病院の今を発信。
今号からはチーム医療に焦点を当てます。

• SAKASO TIPS •

チーム医療って、どんなことをするの？

チーム医療とは、医師や看護師、管理栄養士など医療に従事するスタッフが持つ高い専門性を共有しながら連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供することです。各分野の専門家がチームとなってひとりの患者さんに向けた医療を提供するため、疾患に対してより複数の目線を持ち合わせて診療することができます。

1970年代に欧米で普及したチーム医療は、1990年代後半から日本にも導入されるようになりました。2009年には厚生労働省が「チー

ム医療の推進に関する検討会」を設置。その後、具体的な検討が進められ、国内で本格的な推進体制が整えられています。現在では高齢化による医療ニーズが高まる一方で医療従事者の人材不足が懸念されるなど、チーム医療は様々な課題に直面しています。しかし坂総合病院では、開院当初から大切にしている地域の皆さんに身近な存在としてよりよい医療を届けるという信念を大切にしながら、患者さんのために最善のチーム医療を提供していきます。

※参考資料：「チーム医療の推進について（チーム医療の推進に関する検討会 報告書）」厚生労働省、チーム医療推進協議会ホームページ (<https://www.team-med.jp/>)

坂総合病院には様々な分野で専門的なサポートを提供するチームがあります。
今後SAKASOでは各チームを取り上げ、紹介していく予定です。

★ 心臓リハビリテーションチーム

★ フットケアチーム

栄養サポートチーム (NST)

★ 呼吸ケアチーム (RST)

感染制御チーム (ICT)・抗菌薬適正使用支援チーム (AST)

褥瘡対策チーム

★ 心不全チーム

★ 認知症ケアチーム

★ がん診療支援室

がん診療支援室

★ は課題解決のため、当院スタッフから自発的に生まれたチームです

上記以外にも多様なチームがあります。また、ソーシャルワーカーや認定看護師をはじめとする専門職による個別支援や、地域医療連携センターや在宅診療科などを通じた地域住民への連携した支援も行っています。

スタッフに向けたメッセージ動画を撮影する院長。病院の経営状況や理想像について、院長自らが発信する



富山 当院は急性期病院のため長期入院が難しく、病状が落ち着いた頃に転院していただく患者さんが多くいらつしやいます。そうすると、私たちだけではすべての医療を完結することはできません。それならば患者さんが転院した病院でも私たちの考え方を共有していただき、同じような医療を継続していきたい。これが理想の私たちです。実現するためには近隣の病院との交流を通じて私たちが得た知識や技術を伝えたい

ですし、教えを乞いたい。その交流が多く、医療機関で広がれば、地域がひとつのチームになって地域完結のよい医療提案ができるのではないかと理想も思い描いています。

吉田 チームの成り立ちには、困っている患者さんがいることが原点になっていると思います。医師や看護師が中心になり、問題解決に携わる延長線上でチーム化されていく。きっとこれからも新しいチームが生まれていくでしょう。もし強制的にチームを作らされたら、どこかに不具合が生じるかもしれません。メンバーの誰かが欠けてしまうことで、存続できないチームが生まれることもあるかと思っています。だけど、ここで自発的に生まれたチームが、たくさん医師のつながりの中で展開されたり、影響を受けた誰かが別の地域で新たにチームを立ち上げたりするかもしれないよね。そういうことがあるといいなと思うんです。患者さんにとっても大きな力になりますから。

富山 技術的な力を付けてもらうことを期待しています。アクセスしやすいチームづくりにも力を注いでほしいですね。問題を抱えている患者さんほどのチームにもいます。だから、相談を受けたらすぐに応えられる機動性も柔軟性も必要になると思うんです。そうした志を持って育ってくれたらうれしい

坂総合病院には、自発的にチーム医療に携わろうとするスタッフがたくさんいます。スタッフには、今どんなことを期待していますか。

日々の診療と並行しつつ、定期的に医師や看護師の相談に応える診療看護師。チーム医療の架け橋的存在だ



です。とはいえ、今でも十分に力を発揮してくれていることに強く信頼を置いています。

伊藤 坂総合病院には、認定看護師をはじめ専門的な知識と技術を持ったスタッフがいます。そのようなスタッフに近隣の病院などからケアについて相談がくることを考えると、チームの活動が院内だけでなく地域にも広がり、地域の中でチーム活動をしている、という意識を持つことがさらに大切になるはずです。今以上に地域に目を向けながら、活動を広げてほしいと思います。

吉田 多職種の中で仕事をしていると、自分の知識不足や未熟さを痛感することがあるかと思っています。そんな時、「勉強したい」「こんな講演を聞きに行きたい」という志が生まれてくるはず。その気概を、私たちが病院として後押しをしなければと思うんです。坂総合病院で働きたいと感じているスタッフはどんな時も支えたいですし、今後でもできる限りのサポートをしていきたいと思っています。



院長
大浪 英之 先生
 (おおなみ ひでゆき)



眼科
おおなみ眼科クリニック

〒985-0853
 宮城県多賀城市高橋5-3-5
 TEL 022-368-8805
 URL <https://www.onamiganka.com>

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30 - 12:00	○	※	○	○	○	○	△
14:00 - 17:00	○	手術	△	○	○	△	△

※火曜日は手術日のため、予約受付は9:30まで
 休診日／水曜午後、土曜午後、日曜、祝日



連携医のご紹介

おおなみ眼科クリニック

[眼科]

当院は2016年9月に多賀城市高橋に開院し、今年で10年目になります。開院当初はよりよい医療を提供しながら待ち時間の短縮を目指す課題に四苦八苦していましたが、工夫と改善を続け、今では皆さまにご満足いただける体制になったと感じています。今後も日頃よりお世話になっている坂総合病院の先生や職員の皆さまと連携を深め、地域の皆さまの健康のために精進していきたいと考えています。

ところで皆さまはアイフレイルをご存知でしょうか。アイフレイルは加齢による眼の衰えの総称です。見え方の不調を放置しておくと白内障や緑内障などの発見が遅れるだけでなく、筋力の低下や認知症が進行するなど全身の健康を損ねることがわかってきました。だからこそ、健康寿命を延ばすためにもアイフレイル対策が大切です。目の不調を感じたり、アイフレイルチェックリスト（当院のHPからも確認できます）で2項目以上該当したりする場合は気軽に相談ください。スタッフ一同、皆さまが目の健康を維持し、よりよい時間を長く過ごせるようお手伝いします。

かかりつけ眼科医として地域に貢献を

坂総合病院から

地域に根ざし、患者さん一人ひとりに寄り添った温かい医療を提供しているおおなみ眼科。アイフレイルにも力を入れ、予防の面でも丁寧に対応しています。当院とは日頃から密に連携を図り、安心して最適な医療を受けられるよう協力いただいております。今後ともよろしくお願いいたします。

#19 自宅で行う簡単ストレッチ⑦

「みやぎ東部健康福祉友の会」が毎月オンラインで開催している「自宅で簡単健康ストレッチ」。そこで紹介されている簡単な運動を連載で紹介します。今回は、太もも裏の筋肉に効果的な運動です。

太もも裏側の筋肉を伸ばす運動

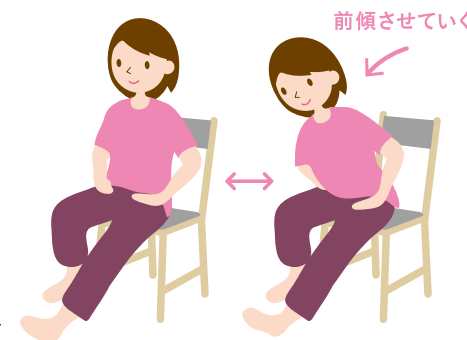
- 1 脚の付け根に手を置き、軽く背筋を伸ばして椅子に座る。
- 2 片足を伸ばし、ゆっくり息を吐き出しながら上半身を前傾させていく。
- 3 太ももの裏側やその周囲が伸びているのを感じたら、そのまま姿勢を20～30秒キープする。
- 4 ゆっくり息を吸いながら上半身を戻し、逆側の足も同様に行う。

★ポイント ②で指先がつま先に触れるように行くと効果アップ！

「運動療法センターのびのび」とは…？

坂総合クリニック1号館6階にあるメディカルフィットネス。健康増進・疾病予防運動、生活習慣病の運動療法、介護予防運動などを実践する施設です。

※現在は感染症対策のため、特定の病気の重症化予防を目的として個別にご利用いただいています



栄養手帖

—食養室だより—

“食べ過ぎ”は防げる？

夏が終わり、季節は食欲の秋へ。多くの食材が旬を迎え食欲が増すこの時期こそ、食欲を上手にコントロールしましょう。

食べ過ぎによるリスクとは…

消費されなかったエネルギーは脂肪として体内に蓄えられます。内臓に脂肪が過剰に蓄えられると、メタボリックシンドロームや糖尿病、脂質異常症など生活習慣病の要因になる可能性も。



食欲をコントロールするためのポイント

1 食べる順番を考えよう

野菜から食べ始め、おかず（タンパク質）→ご飯（炭水化物）の順に。



2 食物繊維を含む食材から食べよう

食物繊維が胃の中で水分を吸収して膨らむことで満腹感を得られます。また炭水化物から分解されたぶどう糖の吸収速度を緩やかにし、血糖値の急激な上昇を抑える効果があるため、糖尿病の予防・改善にもつながります。

3 よく噛んで、ゆっくり食べよう

満腹中枢を刺激して食欲抑制に！噛むことは素材の味を十分に味わうことができ、薄味でも満足感を得られるため高血圧予防にもつながります。目安はひと口につき30回です。